

# 味の素グループの「経理シンギュラリティ」：AIエージェントによる戦略的経理への変革

## 1. 経理部門が直面していた「壁」



### 労働集約的プロセスと判断の属人化

膨大な経費と申請内容の目視取会に多大な時間を費やし、複雑な規程や社内規程への対応が特定の熟練担当者に依存する「ブラックボックス化」が起きていた。



### 従来のBPO（外部委託）の限界

定型業務には有効だが、複雑な判断を伴う非定型業務の外部化は困難であり、人手不足によるコスト上昇で持続可能性に課題があった。

## 2. 二段階の進化：標準化から自律化へ



第一段階：  
SAP Concurによる標準化

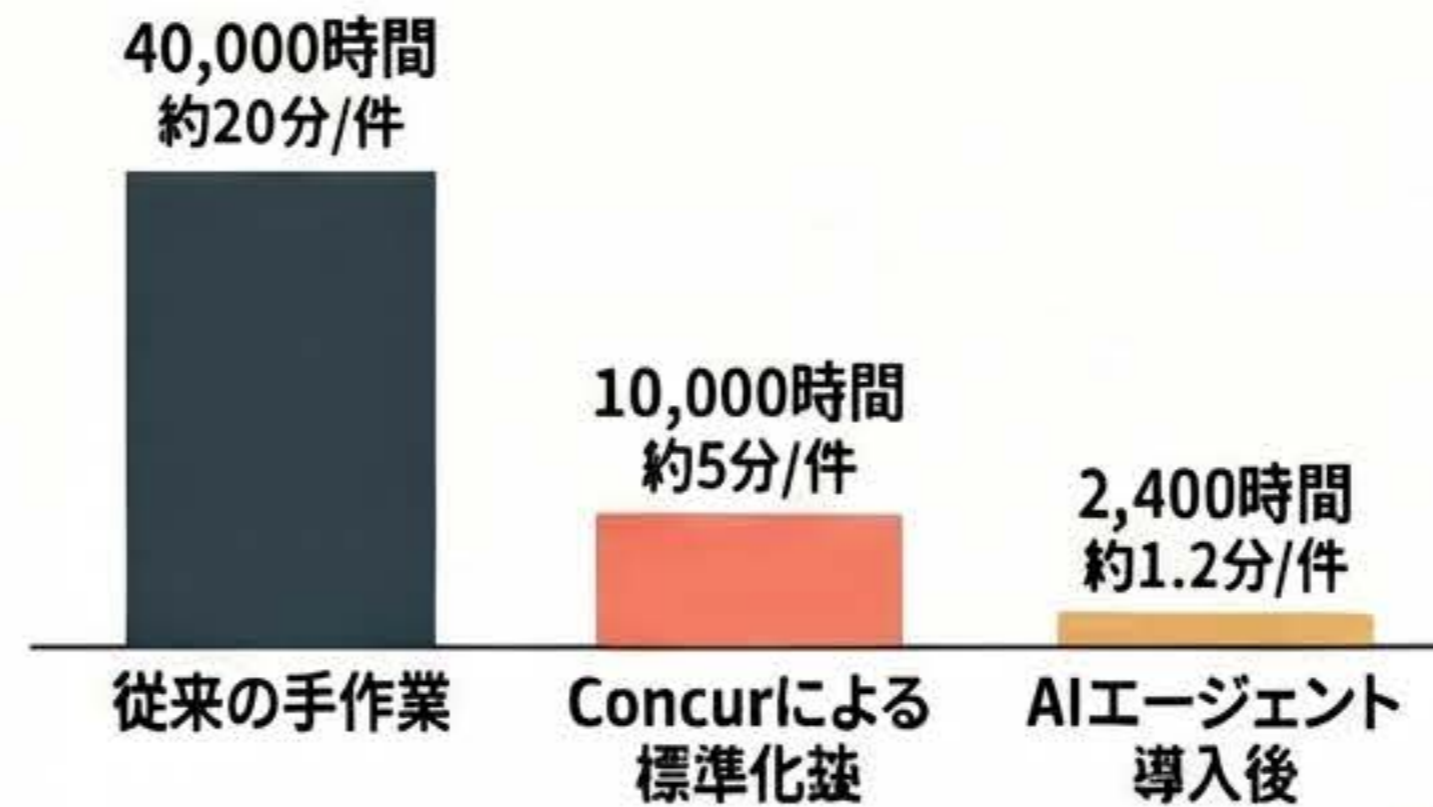
グループ各社のバラバラだった請求書処理フローを統一し、1件あたりの作業時間を20分から5分へ大幅短縮。

### 第二段階：AIエージェントによる自律化



経理AIエージェント  
標準化された業務の上でAIが「最後の5分」の承認判断を代行。  
システムへのログインから申請内容の精査、承認・差し戻しまでを人間を介さず完結。

### 段階的なDXによる処理時間の創的な削減効果



## 4. 導入がもたらした圧倒的なインパクト

### 年間1万時間の創出と工数76%削減



承認業務の創的な効率化により、専任の経理プロフェッショナル約5.2人分に相当する労働力を新たに創出した。



「受動的」から「能動的」なガバナンスへ  
全作データのリアルタイム検閲により、ヒューマンエラーや不正の発掘を瞬時に検知する、予防的な内部統制体制を確立。



従業員エンゲージメントの向上  
単調な反復作業から解放され、より創造的で高付加価値な業務に専念できる環境を提議。

## 3. 「経理AIエージェント」の革新的テクノロジー



正答率93.3%の高度な会計判断  
汎用AIのハルシネーションを防ぎ、統廃特化型の書理モデルが社内規程や検収を動的に適用することで、人間と同等以上の精度を実現。



単なる「支援」から「自律的な代理人」へ  
AI-OCRによる文字認識だけでなく、データの矛盾検出、ルールの特異、そして自律的なアクション（システム操作）までを一貫して実行。



Peppol対応によるデジタルデータ連携  
デジタルインボイスの国際規格「Peppol」への対応により、データの読み取りエラーをゼロにし、処理のさらなる高度化を推進。

## 5. 味の素グループのDXロードマップと未来



戦略的経理 (Strategic Accounting) へのシフト  
経理の役割を「過去の記録 (バックミラー)」から、データに基づき「未来の成長を支援する (フロントガラス)」ビジネスパートナーへと進化させる。



### 国内主要企業における経理AI導入成果の比較

味の素 (AFS)	総経理業務工数75%削減 (年1万時間創出)
クラレ	総経理業務の作業時間を75%削減
明治安田生命	問い合わせ対応25%削減 (年5,300時間削減)